

# 東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会

## 第15回議事要旨

- 1 開催日時 平成20年3月5日(水) 15:30~17:30
- 2 開催場所 ホテルイースト21東京 3階 永代東の間
- 3 出席者 中杉委員長、小川委員、風祭委員、小森委員、針谷委員、細野委員、堀川委員、村山委員

### 4 議事〈公開〉

#### 議事「東京PCB廃棄物処理事業における操業状況について」

事務局から、資料に基づき、施設の操業状況、環境測定結果、トラブル報告、ヒヤリハット等について説明。

主な意見は以下のとおり。

- ・混合管等の腐食について、機器の点検方法や間隔について具体的に説明願いたい。  
(JESCO) 機器により、1年ごと。今回腐食が見受けられた混合管については3000時間を目処に超音波(非破壊検査)による肉厚測定を実施することとしている。
- ・PCBの被液は逆ネジが原因とのことではあるが、作業員はそのような知識はなかったのか。  
(JESCO) 数も少なく外見での判断は困難である。トラブル以後資料入手を努め、手順書を見直すこととした。
- ・敷地境界の環境測定DXNsの結果(環境基準超過)について、施設から排出されるDXNsはC<sub>o</sub>-PCBとのことあるがフラン類等ができることはないか。・DXNs超過の原因を即判断しなくてもよいと思われるので引き続き測定しデータ等の確認が必要と思われる。  
(JESCO) ほとんどがC<sub>o</sub>-PCBと判断しているが、PCBを処理する施設であり引き続き測定を実施したい。
- ・ヒヤリハットにおける環境汚染のランク付けは実施しているか  
(JESCO) 当面現在の労災を中心としたヒヤリハットを進めていき環境汚染のランク付けについては環境ISOの取得のなかで検討していきたい
- ・ヒヤリハットについては、継続的な情報公開を進めること。
- ・ヒヤリハット事例は、作業員の知識、技術不足やトラブルは単純なヒューマンエラーが見受けられ、PCBを取り扱う作業員としては姿勢が足りないような印象を受けるので、ヒヤリハット活動や安全教育の基本的なものを繰り返し実施していくこと。

## 日本環境安全事業ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会

### 東京事業部会

JESCOでは、平成20年9月9日（火）に専門の知識と経験を有する学識経験者で構成されるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会（主査：永田勝也 早稲田大学理工学部教授）を開催し、東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について報告し、審議検討をいただきました。

#### 検討の概要

##### (1) 東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について

事務局より資料に基づき、平成20年度における操業状況、環境測定結果、トラブル発生状況及び設備改善状況等について説明を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・ 蒸留精製工程において、脱水膜劣化については十分な対応をとること。
- ・ ストレーナー清掃などの作業手順書は分かり作成し、教育もしっかり実施すること。
- ・ 排気系のDXNsの監視においてオンラインモニタリングのPCB測定値で変化がないかどうか確認行うこと。
- ・ オンラインモニタリングの運用にあたっては、夾雑物対策を講じること。

##### (2) 東京PCB廃棄物処理施設の作業安全衛生状況について

事務局より資料に基づき、作業安全衛生状況について説明を行なった。

主な意見は以下のとおり。

- ・ 汚染を抑えるために工具などの洗浄を行なうこと。
- ・ 作業手順書は随時見直しを実施すること。